

2018年6月24日

会員各位

### 第68回全国学術大会の自由論題～追加募集のお知らせ～

2018年度日本現代中国学会全国学術大会は、10月20日（土）・21日（日）の両日、早稲田大学戸山キャンパス（<https://www.waseda.jp/top/access/toyama-campus>）において開催されます。それに向け、6月15日を締め切りとして自由論題・テーマ分科会の募集を行いました。自由論題の応募件数が想定していた数をかなり下回る結果となりました。

つきましては自由論題の追加募集を行うことにいたしました。締め切りは7月15日（日）です。応募要項は次ページ以下です。会員の皆様には奮ってご応募くださいますようお願い申し上げます。

なお、今大会の共通論題は「新世紀中国研究の挑戦——明治維新150年、改革開放40年」で、趣旨は以下のとおりです。

21世紀を迎えて世界が激動し混迷を深める中、「知」のあり方も大きく変貌しています。その背景には、現在の世界をわたしたちは捉えることができるのか、という問いがあります。

ナショナリズムやレイシズムの興隆、排他的な言説やヘイトスピーチの横行、ISの出現とテロ事件の多発、難民排斥・自国の利益を訴える右翼政党の台頭、貧富の差が広がり世界的な経済成長の鈍化……世界はなぜそうなってしまったのでしょうか。そしてどこへ行こうとしているのでしょうか。われわれは今、世界の認識の更新を迫られていると言ってよいでしょう。

振り返ってみれば、中国研究は19世紀半ばから、いわゆる「西洋の衝撃」とともに、大きな変貌を余儀なくされてきました。それはスチュアートホールのいう「西洋とその残余」という枠組みに東アジアがさらされる過程でもあり、日本と中国の位置関係が変容する過程でもありました。明治維新は、間違いなくその大きな転換点の一つでした。その後、日本と中国あるいは世界情勢の変化によって、中国研究は転変を経ることになりました。日清戦争、辛亥革命と新文化運動、日中戦争、第二次世界大戦、文化大革命……。なかでも、文化大革命の終結と改革開放の始まりは、長い国交断絶の後、日本と中国の関係を大きく変えることになりました。そして現在、世界はまた大きく変貌し始め、中国研究は新たな問題に直面しています。

今日の世界の変貌を支えている重要な柱の一つはメディアの変貌です。ITやインターネットの発達は世界各地を一瞬でつなぎ、情報のあり方を根本的に変化させつつあります。それにともなって研究の環境も大きく変化しています。古代から、人文知を支えて

きた重要な柱の一つは文献学でした。文献は最も信頼できる情報であり、洋の東西を問わず、人類は文献を通して世界を理解し、他者の英知を認識してきました。明治以来、近現代中国研究についても、わたしたちはそうした伝統を受け継ぎつつ、新たな方法を開拓し、過去を乗り越える試みを繰り返して、膨大な資料・調査・研究を蓄積してきました。しかし、混迷を深める社会の激動は、文献学の基礎のうえに、そうして発展し巨大な足跡を残してきた人文知が、はたして現在の世界を有効に捉え得ているか、われわれに問いかけています。

明治維新から 150 年、改革開放から 40 年、節目の年当たり、わたしたちの中国研究を振り返り、現在のアポリアに答える新たな研究を皆様とともに模索したいと考えています。

会員の皆様の積極的なご参加を期待いたします。

## 応 募 要 項

自由論題の報告希望者を以下のように募集します。事務的混乱を避けるために、やや煩瑣なご依頼事項を列挙しておりますことをお許してください。

①自由論題での報告（一人の報告時間は25分程度）をご希望の会員は、氏名・所属・報告テーマおよび要旨（800字程度）を下記⑩の連絡先までお送りください。

なお、**大学院生**は指導教員、またはそれに相当する会員の推薦状（推薦者の氏名、所属、連絡先、推薦理由を記載。書式は自由）が必要です。報告者は会員でなければなりません（非会員の場合は下記⑤を参照）。

②自由論題の応募に関するご連絡は、すべて電子メールでお願いします。その場合、ウイルス感染防止のため、**添付ファイルは使用せず、メール本文にテキストで記載**してください。なお、推薦状も原則としてメールで作成し、応募者はそれを転送するかたち（メール本文にペースト）としてください。どうかご理解とご協力をお願いいたします。

③締め切りは7月15日（日）とします。

④学会非会員の方で、自由論題での報告をご希望の方は、入会が応募の条件となります。入会申請をしていただいたうえでご応募ください。（日本現代中国学会のウェブサイト <http://www.genchugakkai.com/nyukai.html> を参照）入会手続きが報告発表までに完了しない場合でも、応募済みであれば発表は可能です。

⑤大会参加の旅費および宿泊費等は自己負担となります。

⑥報告希望者、テーマ分科会開催希望が多数に上る場合は、内容や会員歴などをふまえて調整させていただくことがありますので、あらかじめご承知おきください。

⑦応募をされた方には、メールにて**実行委員会より応募受理の連絡**をいたします。メールを送信した後、1週間以内に連絡がないときは、再度メールにてお問い合わせください。

⑧自由論題報告者は、大会10日前の**10月10日（水）**までに報告原稿（フルペーパー）またはレジュメの**PDF ファイル**を実行委員会まで提出してください。提出は任意です。提出された資料にはパスワードを付し、期間限定で学会ホームページに掲載します。なお、パワーポイント等の機器使用を希望される場合は申し込み時に必ず明記してください。

い。

⑩応募申込先は、以下の実行委員会メールアドレスです。 [waseda.gendai@gmail.com](mailto:waseda.gendai@gmail.com)

⑪応募のメール送信をする際、件名を以下のようにしてください。

\*自由論題への応募の場合は「自由論題」

この機会に当学会未加入の優秀な大学院生の皆様にも、ぜひ入会と報告発表をお勧め  
くださいますようお願い申し上げます。

日本現代中国学会第 68 回全国学術大会  
実行委員会事務局（千野拓政研究室）